1. コロナ禍が引き起こした心エコー図検査の学習法の変革

EchoBoys116 ヒロ＆ヤス
山田 博胤 徳島大学大学院医歯薬学研究部地域循環器内科学
和田 靖明 名古屋市立大学附属東部医療センター循環器内科

コロナ禍以前の学習法とその課題

コロナ禍以前，心エコー図検査の学習は主に対面講習会や実技セミナーを通じて行われていた。これらの講習会では，専門家の講義や専門家の指導の下で検査手技の実習が行われ，受講者は直接的なフィードバックを受けながらスキルを磨くことができた。われわれ2人は，2017年にEchoBoys116というコンビを結成し，各種心エコー図セミナーを行ってきた（**図1**）。対面形式の利点としては，リアルタイムでの質問や議論が可能であり，細かい手技やノウハウを実際に目で見て学ぶことができる点が挙げられる。しかし，対面形式にはいくつかの課題もあった。まず，開催場所や日程に制約があり，多くの受講者が遠方からの移動を余儀なくされる。また，会場の大きさや装置の数により定員が限られているため，一度に多くの受講者を受け入れることが難しく，参加希望者全員が受講できるわけではなかった。さらに，新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大に伴い，感染拡大を防ぐための措置として，社会的距離の確保や大規模集会の制限が求められ，医療教育の現場でも大きな影響を受けることとなった。特に，心エコー図検査のような実技を伴う教育においては，従来の方法では対応できない課題が浮き彫りとなった。

コロナ禍がもたらした学習の転換点

このような状況下で，SNSやWebセミナーを活用した学習法が急速に普及した。その先駆けと言ってよい第1回の「The Echo WEB Biweekly Conference」は，2020年4月8日にZoomを用いた最初のWebセミナーとして開催された（**図2 a**）。安倍晋三首相（当時）が緊急事態宣言を発表した翌日行われたものであり，時代の変化に即応した動きとして注目された。その後，このBiweekly Conferenceは，隔週の水曜日夜に定期開催され，2025年1月末までに116回を数えるまでに至った（**図2 b**）。また，The Echo WEBでは，テーマを決めて半日程度で行う心エコー・フェスも不定期に開催されており（**表1**），心電図×心エコーをテーマにしたお花見フェスとお月見フェス，心エコー図のレジェンド数名が講演を行う新春フェスなどが好評を得ている。さらに，オンラインだからこそ可能になった新たな試みとして，「オンラインだから行列ができない心エコー相談所」「超音波検査士認定試験対策ゼミナール（ソノゼミ）」「富松先生に学ぶACHDの心エコー図検査」「エコーが変わる月1回の負荷イイ話」「心エコー判読指南ワークショップ」「Satton's血管ECHO Showcase」「医用超音波工学の試験に出るとこシリーズ」，そして「GLS mania」など，多彩なセミナーシリーズが開催された。

図1 EchoBoys116 ヒロ＆ヤス
116は2人の誕生日1月16日から

WEBセミナーの運営とその広がり

The Echo WEBを継続的に運営するために，われわれは日本臨床超音波推進機構（JCUA）を設立した。上述の